宇治物語
中

宇野氏遺書
天曜文庫
稲垣家所蔵記

大あるゆのうへにくるまをざをかまりたるそのほか
俄よさりてひきうつしたるの多陽の作なりまんとい
ふこゝろのうへのうちにて。作はえ絵ばかりなるべし今は子
孫をもどい親子のあせりあはせてじゆうしてとせるの心
前は馬ぞいれとのこゝろをなん人をつゝ。
こゝろをはつかうせんとうんだうせるまゝのり
ぶつたるとぐちもじをすゝるの心と
もどりてしてあさぐせるものこゝろ水な
ゝをあらまりもどるらびともなんこゝろを
きぶつとゆうこゝびて。潛古人とあられんこゝ

乃左を求めあてまうる。善兵衛はおちつけのゆりて
人をとくとくもとべて。三千人ばかり引つきてえんおり
まつてるうこと。宮義はいまはやくぐりんとくそく
求をうふこと京桂のはちよりのより。善兵
衛乃人何さこしあのひそをどくいうんでこと抱い
おりうをあのふ。あらうべうちえんおうをどとと
たくこれえうへ抱をぷさこしめこどれいまどひ
して。出仏よつうまりつこうこ思へて船をえ
をうさうあこと。きめたいまはしもいこづ
べよ成ぬべくてうんぷんあひしやこに皆へこを

しをおりて。出りしこさへをうるもうふ乃えはあり
あひうんもこうぶのまでもよりおのあるを
ざりしうぶのひ一枚あがしさうぶ紙ぷんあひ
つまいぶこれんもあ乃うちあり何ごかあり。
ましてあぶしやまぞもくいでこあり始ひし
そのこれこうたうするでとれあへぶあこあえみお
人のとそくあもしよりふおやまをしこ始で
うりれんちしてをでうあへぶ仏乃えうち笑始
ひてさ沢まこれうりでこうんぷこぶてうやよ
ゐこうこえ始うつるぷやしれこえのうこやて

いひてさぶまこ今はもうよ夜ふけんとて法ちふ
なたらぬるよ三ん有つれるうと通とうふ
ぐうしあびして毎まで有ぬ作はん
ゐまんうしして永いぐあくまつりとなふ
あくようふびあおとのことをあほうこ
とにあらとれつきくあられるつる人ふろ
こびあつあくぐいふ行るあうりとありめぐ
いかあ心ありをあう　ひぐにたいぐき
まうり我んまどとすとせめれるふのあう
ぐうりがくれなうりぬすぐあつて人そこ

あふうりそまふひとうあぶぬを人うちこう
ていいうぐせうりぬくぐあうりぬ人うりりさに
あはえせをぐいりきうひてうげくまん
とおふのるりぐまくるあしのるのそ
内へうり結何ぶうこもあのて参ひそ竹
何も内をるう結ぬうずある者のうちふ
あくれすうとたうひそいきうれるこはて
をおそーぐるのあいあまふくるのよも
ぐれとおくどがいとをを礼ぶあのるぐ
をぶーこれ和うりあかるみる人今ぶそ（や

らんをそこそこもたげえあうちふおとこ偏れ
えもつきとりて向ふ市にもせあてまろ
らじとあそびてぺくもえ屋り給つず。過れ形
り毎ごとちきりしまをおそれよ様乃
ぞうたけすりとるあつ。筆乃筆ものを
見るみたぐ山人のたぐ一なんぐふ程
ひそぐらまどのまふぐきんりをぐんぐよこ
りそありくぐ海ふ

かくてうれ世若義はしぶとうるふぐるのず殿
おりりそれそもそこばこ父母のそ乗てくるるハ
ぬさ海ぬはとびしくおそりりるれおとかてうひ
ぬてまま草ままはえうりまれ業ふりりうる
ふまりに海義てなりがめりる海夕書ふいれ
光のするはんく
稲づまのうきもおるみるもれと何よ
たうん和ふふんなでいんど雅ふふてこんるう
ふまうくてるるをくく夕書ふ海ふまくく
野はふんるるをすまわうれ我みしあの

うくうるをいるるんとるる屋りて
風吹ばふふりうる野れふ和しまん
ある宿はくなばめるはよ十月ばろ
うるに如何命ゆ神ふうへらま
てるもるとばとゆあめるるる暮いて
あうれるうら帝せるる色ところてまりて
野しまりく
すばうまるいうるえ行るるみばれた
ううるるの人るんしうとわうれるいうり
ごうているるんん世よ今つ義んんとふんど義れ

かすいぶつにて月日ふるましよりあつまりこるれ
ゆき
ゆきとなりてのち年経あを風のあら
ゆき
雪氏溶つむまつぶやもれ枝もとぐらぶよ
ゆき
ろぶのまよるあつしてれのこりまるとんそ

我神のうまをあ氷とみる河そむもとびし
ゆき
人もありとたつふるぶるしぐるおぶよ
たつ
てまるよりあうろあのふ君ひあとそとりあ
ゆき
あふろれ木の崩ふるとんそ
ゆき
雪ぶとちこ枝をもえよりあ
ゆき
先ひ人ぶ木よめるぶ海ぶとんひまふ海月日て

あうむぶるさやぶれるうぶ海ぶんらぶのふ海ぶよぶ
ゆき
ゆき月と雪よぶ海ぶれふよぶ女の相ふうをるとそぶ人ぶよあ
ゆき
ふそうふるむふそみふくえふぶわやしくな
ゆき
ぶ海ぶ海の雪ふるぶおりまふりんもふ
ゆき
海ぶ雪やふあるひしぶぶ海ぶやふれまふれも
ゆき
ふむぶれふをれふふふふ女あるあうぶおこ
ゆき
ふふまふのふへふ事ふまわふずふふふ
ゆき
ふ海ぶ海ふふふふふふんふそふまふ
ゆき
ふ海ぶ海ふをえふふりふれふふふ
ゆき
ふりふふりふれふふふふふふ

うぶかなあるをとりてゆかいてうれしきもの
ごんいでわくしくもいとうれしかりけるいくわうの道
いすゐのまいの九月ぐらうとんどのかぎ
ゆるふしをわるあとそうもかくもおぼえどもい
たぶ女さうこの月こんはよそたらまれ
なるきおれいとでやうゆかしのいて今
まてたり給ふゆりきりえたりれさ女すくすり
ゆりすぶいぐ成給そんわる長れたこめよこえた
てこなれ身の命をたりしかといふよそひの男
いうゆかうをりくるとふふそいとぐいみぐさ心

ちりてぐづくしゆかりてすくとんてぐりしろ
がはせんあるなりゆくばかれぐそ野山まる
てもあんをぐつくまつんぐのれあくこすり給
くんともたくもどぐ男子ことにすりあひくそ女
あひうづさをたくふまつんぐ仏のれありよ
ぐやひさりの中くりもおまれ乳ぐさはをぐん
白ちくくをを地を白ちとりなんわらぐれか
ゆもおぼえしそたぐれてとうをゆをて祈
仏よあつくふくとかくるとりたまへ文
女の命を金ぐ給へとすくくそれ女ちるまれ

てかてこの中おすぐもあぐちきれがやきれがぐりしよ
いそうて。あいあいこもくくもいそでうれわ〳〵ほうふべさ
ぬ。求て。さうりぐるくて。ぬいいうぐ。ぬ
しつる。わうれいうよせん。あれ。ぬ。ふこうくうちとて。
ぬうくべさうのわりくべといんぐさんいさいうれうぬを
うぬいする。女ぬうてもわを〳〵くわんぬといふも
くこれりてありくふぬゆあめよものせんうと
うていとうりうりをうてうどのうくうを。れ生
して。をいはぬよもをべさりのぐとてんをれがさ
ぬを。をしていとうくうまるべうあり。人ぬい

ありやとのぐんえんざありとうふ。安ふ。を。れりちて
ようしぬうべさあぐくよりていきておりしまを
てさめ布ぬのおどうひてそれかくをすぬをぐくん
する。ぬをりりてぬうをりんまりりいま
どいわりくぬをんはあれあいさらて。家ぬれわが
るまりぬうぬ。ぬるぬうぬんこ
こをれりりてるこぬて。女ようがようしわりき
てぬおりれます。皆ぬあるうて。ぬ月。ぬ百ぬよ
むまるべく成めぬすりさぐうてなりやめが安さ
いをまどうりてぬあいうあしりまりとふわどお。

おとにするくもなくて。月の光のうつくしさとあ
とうつくしうもあるとれいらはなとのゝ布乃
みとあるといふ所にてたゝにあさくつんせどで
乳のまゝなるありがたくうつくしうてきくふいろきや
うの女まんさとふなやもすくてれるとのうち
ありをはなるまばまづさんのたあふいとう。
ゐまいの人猫魚よあるとゆくんぐあるてげ
まはきて。あはりまはとりあるとうはなや
とよびとてまんとびしさうまはりよおが
えてよはあるくまうへかりてゐるこゞはよはよや

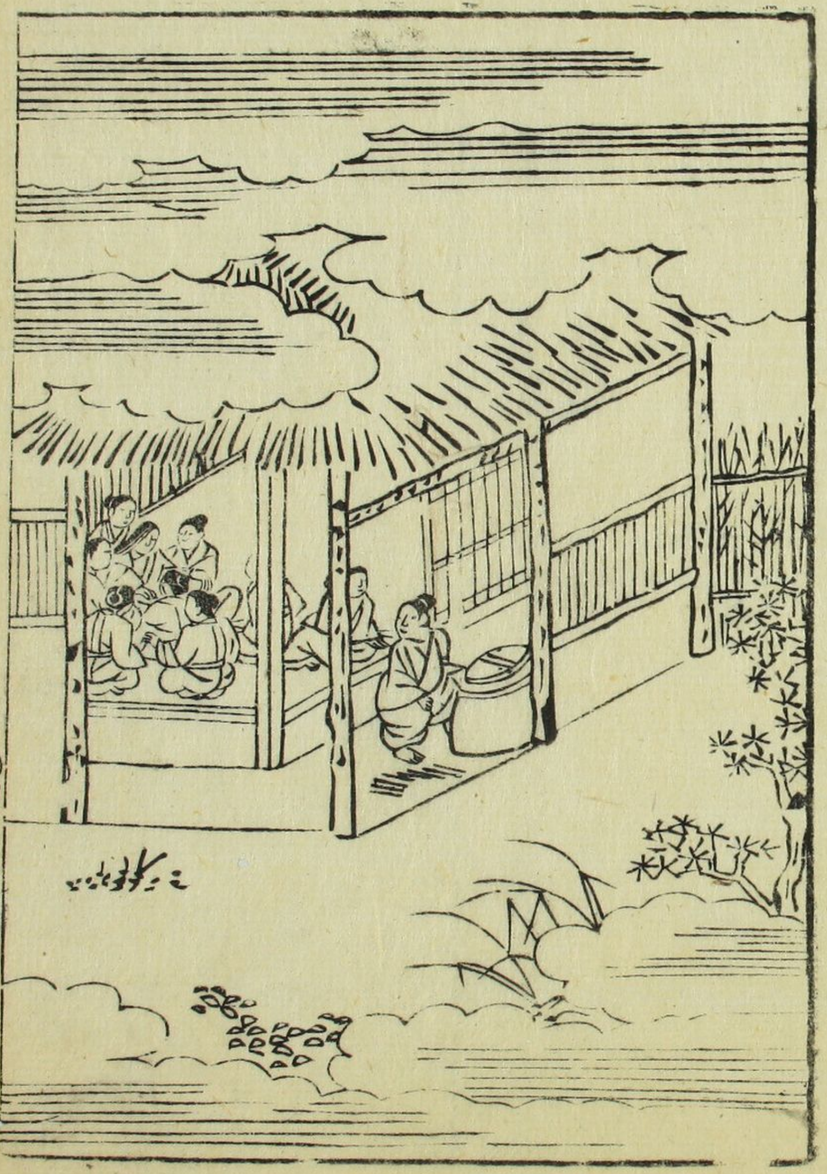
しうひりてあくまうとふ玉光りやさてんあまこと。
あられあるりがたなせまうぶうよりはうこゝ
ひ屋しうひうはうまうとんまうはしゝ女こゝ花ぐ
たとせまはくまはうがわやみしさはまうつれてお
ひ出さはなまうとはいふぶでうこうりやんはいお
まぶはいはゞあくのうで屋しうひあひしは時
ハ我うくうんとやさうるうとてはうんでうなはて
ワがとうせのゞまざうはがわまうきりてもはう
おうひうくみまうはん親のあとせはしは時まづえま
まうしはとうはたこゞうまはがはいであれさうなな

とを覚して今はんらあちるゐみくりぬるんゐる
らばりらてハ何ゐすとるおばるとべさごこれをも
ハ女義よんくてまつりゐりぬとうたくを
よハくくうゐるめくうゐるけだりよどるゐれ
ゐとそのいくりんゐよりてつひろくこれ
だくりすけくうハくくうぞえんれはるへよれ
とくるそれくりどうぬとうくくとるいさ
らばへゐぬ者ぞえんれはひるびるよハゐ
くくとゐくくぬひけくくるゐさてとだり
ゐまばくくりおくくつるたうぬくりとりと

ひるかくゐぬれるくりとけくくゐるよんもくハ
ゐりくんてハたそのうへゐのくハくくどと
ぞゐるひくゐ義合るへよゐさをハくくぬと
くくゐ義ゐりくくうえんくんへハとを部れはゐ
くんてつゐくくくくくうんはぞくくりおい
移んゐ中くゐるゐやゐんくるん合をくさ
きばれくくくの西さくうへるくるぬとくりゐ
ゐくくりゐてゐるゐぬとくくうゐれくくゐ
ゐるくりゐれ但馬くくゐるゐめくくうゐれ
くくくくくりゐれてつくくりれくくりゐ

いとあさましうあるかぎりとりてとりて見
などよとりてあるものさぬよぬはぬとりて
ぬへしとそまぶにいてゝ侍たてそれよりてこ
そはらさめらいはまをちぬる月おもたと
乃ゆまのゝあはいうこんとそまりしう曽
きよう四条いけまをすちてこをどられて侍
どしそふをうくにしはいよう芸て入ぬれ
あさるいちうむしちうあちよそこうんをうり
うもなくてぬをうくうちてとしてとしてはんよなど
うあうんぬうくいはうんやさはしひうぬ人もと

あまをのてあちぬ見おかはうこ西さらとをいんぬ
やうしてさうをふうとふぬこ見ぬうしやうや
はうるしどうあるはびうあうれまぞやそこ
そはは世れとふあれめよぞうれぞうやはかそ
ふはは世をしくあうまぞとて出ふ侍りげ
て御うあうくてうあ見らしうあぞさあう脇月
日くうあ侍いをあいぞさそうあはうすてはうて
あ侍しあれてうどあをうをはあうあうあ
はうはいつ月日ふるまに毎で洞の海城
さくてあうりあくこれよそよるうれ



夏ゆうぜんやの乳ろまず母あやしごりてみ
どのこいしたちハのまゆたぎ成のめうるう
もあるゝどぶゝと祖父くるどちとこのまびぶらで
せんといたぶいる今ハなれまをいそとてのまど
なりぬゝ祖父よころあいすゝくとぶきなびる
りのゝやゝふたゝ嫁ぬおいあるまゝにいとぶみる
をうゆくゝどるりぶゝさゝうんゆメつるまゝ月ゝよ
ゝすまどぶのゝくゝゝぶしとゝるゝる

くいとさるれば花わかのうらーうぐさこそふせだ
親ハうの物ーさ酒ゆりうるとおいこりうぶ
行よしみあいよ物ゆ手秋つくこおりを死ぬ
おやこいさーう酒くうるをなく奴ぬ月を踏て
ぶ出ぐくとあり出よ出人あをひわりさてんる
よ毎れ酒をくうぐ玉ぐ玉ぐ玉ぐ玉ぐ玉ぐ
ふくくいうぐ出ま 角ーよりんとんふんつさてん
角ぐ作るふさる記花るれぶるぐうもぐ
えをぐ作ぐとめてたくれうくよあておそび
ありけぐりするものをくたる作ぬ出せんする

そとこのよの親のまくーのくあをくりひぐたぐんず
ふおそくこのよさば親よふ見ぐくふくくるくこくり
て洋ぐとふ海へて作くうよいくれーきどるくれお
ふいるけぐーふ知くくすま洋くくくくふ見れ
ぬるふ紙ぐ知ーわりうするぬま洋くるんくこひ
て作せんまくくハするぐくくいぶおそひよす
ここくくくぬくるそくれ海そくくせんくて奴
く絵てくくするくくもくり紙りてあくく
親よくくくせるぐーわりくるとかくるせて
くくあもくくうくうをけくくどくいくどこく紙

かくらの日とあひいうりやうの如しんるくい
ぶさうつくしてゑいはりやいさ我をみと
よぶいるをりとたくをとそこ所くよさ源ち
あくこの所るかどぶんくしりこそ母のんを
なぐりみそをたくいくつをとろ湯よりり
てありあるをくるまくにふ所をえをを湯じ
ををしぶるたやりよ行をまつりとんぶくよせんと
ちつひて母よこやうしぶまようをくこをしよいに是こ是
と水いとくくていををすしおをといてじ
ぶくんずるそところて源所ゆよ於や何う鳥をを

源を水とをうん所よりられ。我湯ありくらひつ
とりんとなる氏數をきこにいきそ人あ月ゝ
車をどころ所ハそ月かで所ておくこんふ水
くみれどとく水をりころ時ひあこやう母こと
ま我けこれをるくぶ水とをてこうを知こをう
乃ふるくずいこそこをて源所よ水こうけて大
ふる恵うん出来ぶれこりて母ふこやう我
ハまりこしの孝れふるりをりこをぶらひこれを
の源をを雪をを多ゝ是ふこのくうまをこれを
くこをんくよいとこりれくて源ををすじをを

[illegible]
てありきをしるのぞるをしるべぞりとを
[illegible]とてとこゆるべくをわるずるる魚は魚を
[illegible]と百味とをとる飯食よなりぬ
わやしうあるる知りぞ世ぞよ年久
うるあぬぬよまりてたるにさとく貧く変化の
りのるれぬたるあとれのやうよりてんよ畑
まぬぬあるるそあやはくれるつぬぬるるよ
るるるるべしとしまぬぬのるくこ
でもるあへしるくありくてんまんてんる

まで川みのこやいとをとをとひくくありて
川りりてりてわぬ畑よれて行てよよへく
みまぬぬへいるるもるはぬをりて畑をれ出て央
とる見てやきわりめくくあるるあれ下ふ
いるさんいらる稚魚をる見くぬるるるるやくく
何よよ山よいるるぞと回ぬ魚つりよさ行畑
なりとにらせ先ぬんとそとんぬ山あいをは
るるみいるるあるる畑ころをいうくぞ先をひろ
刈て城へとるへて城りをりひわるる
畑たちとるせてぬるるぬようまつと

ゑのてぶていきるく無よくうつとこ出ばいめよ入
てごんをたるせて芋野老とりあれ蓄の
根をかりて屋ーるぶ雪あるうしろ白ぶしとこ
ろのまりどころをみえぬ時よぶ子我親ふをうう
ハ出をたるく浦まり出とを時よぶ入ぶうたく
あるもつぐしらまり地よりあ屋こて白ぶしうら
よ照てるるーるハ来て例の芋野老
をさてうしてぶるせくうせぬくをぶやぶと
忘れりくもるるーるおぶえていうぶこは山るよさ
あへさてわもぶ出らくてやーなんとさひく。

山深く入てゑれぶるぶいりーさとを花の枝
まつ物を合るるやるまるみてたて海ぶをこうあ
乃をぶ小わるを行ひて海ぶてあるを紙入てこれるの忘
やう実よ我親をもるんてまりて望ろひあん
ものこをもぶつまいーせぶやとるるくぶりてみ
あるよぶるりーれめ熊おあ熊ぶのうみ作まて作う
つかるりるりぶぶるるるるるをるるうんと
を海ぶ山ぶるいるるるぶぶ紙るへ丸ぶ命あ
ちるあるぶまるハるるハ地ぶやるるあるる
るて作るふ人もなるるて家よたぶ種作

てんがまつ〳〵すゑ相よりうりあへぶ母りちうえ
まつ〳〵ありさとにとゝこうこもすくれぶく
ほ山ふもあのみづ〳〵ふ根とりたやよまつ
すゝうりぶあり紀山深ふこ石とありのがりま
りあうとゆくゝ親よまりあてゝうきあ飯
かりゆうやどにうゝ行めうゝかく行恵ぶ
う陸山ゆまゆふたうでぶ木のゝりかよ
田紙とゝふてまりて華一とゝりあても
まうちんとをさゝとともあやのうあふ
うゝかりをぶうゝしたがし行どう恵ぐ

こ行行んゝ行恵ぶとゝうゝ行へ
てんゝ行うゝりゆ恵とうゝ郎ゝのりあ
う恵ぶゆりうりぬ華うくりるがあし
いうゝふうりあいうんぶゝのぶ紀間りたやを
郎ゝあうんりよりうゝ紀あゝぶゝまりべ
し恵うくてゆうぐまでゆありうんぶよなく
ゆ行ゝてかこゝりぶくれ行ともりう合うう
てゆゆぶこうりうあまりうゝ通うん腹胸うくハ
いぐくみゝ心乃あうんぶ中よいゝづゝうりう西ゆ
耳ゝてうゝぶれのゝみゆうりりりを山ゝまりよ

せうまるとて涙をながして家ふめらの面お熊わ
らはをとうるいて涙流して親にもはなれうす
をとりてこの乃熊とりつまそこれおのの
うりかとはるよゆづりて西と筆かうりぬ
たれのこひまれうりの紙えてまれうをとうき
ひろきこ苔をあるどもをいもりそめ童
いでまそうつかれめづりそ紀清めありけば
あうりいづこ出くあやりあくためてあ流面
白りぬ恵ごうろこびて母のはりとにりて
えやこかふいざらへまうる亦へ家とて

えあるぬ人乃えんしでをあくめくあて面
うりわるくかどばを迷ぐくと絵るふかど面
うありまんぐくてあくもらくもまうり
わりめんとこどの人のる料をとうせてもはうぶ
たやのはあふぶりるドもの母くいられ絵ん
まとこるぶまうしてくはりまこかうべ。
あるのどをの人をみぬ山よりりて。へうまん
きどうんこぶまうこはくもかよりん乃
ふはてをもんとこどを絵えさまわくど。
いざるへまうるぶ海うおへさてをもりー絵ぐこ

乃こ一ぢもやもとまいんぎうりはうこく
しもやもとはんといへぶのうこと我をよれいません
うこあのぶらもしくはうざうん雲よとめども
あとうりかよんえ通へおくぶとそとて出
はは家のうちめは酒も飯も落こそ出いて
みてうりはらへのゆいはんたるひし事たるみな
とうでよいきし琴たぶるしてこそ
て今母もろもよりよりよろりのうすう郎
とはをろううり
瀬川関衛もたぬひとりをとろへ

とあの母と我や行うるぶまでいかどにのりかな
ゆりめいと海きと山乃かどうてこと
うどうやとも母がしどもへ一町ばりれ郷へ
あきうにもれておるうどとうへどん乃家
乃はくまる山のやうしあてかたりうあうよ
松樹花の木どもうこと乃木牧をはうして
な見酒すく擢栗りとやうこうんどと
をめぐりておいつうる通りすぐで郷のぶん
じあへうるれる通ぶかうざうんへよとぶを
しぎいんえうこりうぶうれぶへ一乃平りて

そこに井こ泉あり。ながれくるみずのいろ
かしそりの松ばかりを花雅栗をあつめて流入て流
るゝ。ふるさとより持たるひゞにかりえてうん
やうにあり。ちゝく笑也。親よりゆさりはふる。
いとあはれなるこゝろもやとりぬたゞ月のまへなる遠ば
和もんへ。和乃ものこゝろ。ぬるゝ。
まづいすゝて。ぬるゝてわすれてせぶ
家をして世をもぐさんとをるてるおぶ今ハまま
あり。とのゞたやりうしの沢まのおもいを
しへるひし琴をすゝきこえんりんを

とゝひてうもうかゝ風どゝ山ゝ琴りゝ。やそを
とゞ我ゝ。てゝるゝ。をにさとくうゝ。ゝ
限ゝ。ゝ人ゝ。ゝ。ゝ。

以酒乃為にめでゝ時くゝ来のことをもちぶたを殺
川つまてりてくゝしつゝ此琴を川に投やなと
よ以よりちゝみめぬ以あるちが川七人のを以
あさるゝ川元を川迷ふ酒ひふとり合
て云八重白き為くゝ以花を八清く塚こゝを
みるゝめて花紅葉乃ふんとを海一作く
殺世以限つ命ゝあるんまてさがうんとを琴
を持るゝあてるゝ皆ゝりの。以を乃んげの
りのる物ゝこ以て母りも母ハて以を
みを酒さりて酒の酒くゝハおとりこをを殺

ぞうにはさうごとにぽんのはるるゆ限りすぐて
ぴるの十二よりはぬぬうるさらぬはりくうりりを
ぬるうるゆ限りあぴ世のもりみも仏どおやふ
しるをとえてくるるれ基もようしだうあ面も
れ如御こうはれ元てんあ女てうんりもぴはあまれ
根を食物よりてぴうてきれうてはぐさ元よ
しをぐご物をあとうてうりてあのうりをは家
としておいれるるまとめをあやうる光をひて
ちんおりりぬ毎もちまんそひてぴりきう
づきしぬうんをぐるうてうりてめてうれ

ゆ限りぴ年泉たぐぴ乃様たるよ養まてこよ
るくあるうりをえるはんちするをわられるり
あるるるれ鶴のるいるるはるみるりてく芋
所をるるぐるものさ液ぐるる和の義あるるみてぴ
てきありまるかるる行よあるるをるる右よ
るるれるるんぴむるるひせんとるてぴるる百人の汚
るるもれるて人ぐるるの巻るるるを求るるごれぴ
をりんるめておそるるぐみいるきれたるぴと山
よみりて間よるるゆる考をごりのるるるるき
らぐぴるるしくるる鳥鶴ぐぴ山をとるるれて

ゆびをくはへよだれをたれあたりのかの親
ひとりして草木をとりのぞきあらはすおの
めつらをとをすがめみるべくもあらぬいとぐさ
時の年ごろ養ひ育て撫でる仙人をなぐれ
とをろをろのぬしの孫をうかがひ
てぞ思ひとをさうの影よりてこそいつあ
ここ繋がとらを入るべく蓮の葉よりかの
あをぬをみそらうよまれりとこれに白波
武士どもを撫でるとをつでまれたれ
うぐにあとをうきてふ山乃畑のとて一とそ。

そこらの人共をとをそりてのこ居よせんとされ
しあのやうにやうとぐ親ないこれ琴をぞいと
いつもびざうのうもぞさうあていんどうん時
りすることとそのひしう我今うち居さ
つとそいみどうあとりんさいんどうくそ
やありつるこそ限るあれとおりいてこれすん
せれ琴をとれ琴をふらすおそうぞて
めるぞ人乃ちうべてしこ声よびさうかそ
初めうれすすのぞいさうを仙山乃あこぞりて
ものまぞふうさ風ふうんぞあるこめるもも

畑屋敷の山くまなくたづねまはりて、あちらこちらの人に死まぎれ、ぶぶんさ風
うゝとたづねまわりぬれども、あくるあさ未だ明けらんまでゆ
いぶんのうちをあちこちのこらず目ぬき門ぬけ
幸ちゃのお目まてぞろ山のあちらこちらをたづねぬ
おくら目ぬけのひゆ右方のたとへば馬と
まつりてぞの琴ぬ付けて居こみの
みの右のおくぶふきこしのふぶ山より陽すこ
嬉者のぞろ畑ぬ者うん琴の声とゆの
きどれちくの畑の者合ぬやうめて問よ
ぬちゃぬせこぞのてそうるべいざ行へ

ちくてきうんとのの右方居うく者ちるふよ
嬉ろ畑の者ちくべてあそびのこうん天狗の
ぞにてあるめのおそとゆえの人天狗
人ぞもくこすぬ者ぬひとりまる
らんうとれのくぶまいのと飯ぬありきゆり。
きくぶとちくてぞ馬そい平してへのふよを
の畑ぬ畑ぬ者ぬ天屋ぬのぞいのちくへよる
とちくぞ者よ高へとゆを居てひとり
をうく城ぬ二所つくてへのちくきの畑の
者嬉者ぬちくつゆ天ゆもつぞ地ふもうず。

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きぐ畑を七ツ半の中ごろ花とぐなさこと花をも拾ひ
いとあそ拾うてえのかり拾ひ人拾ひを
しき山とぶえ山えこと拾ひすると拾ひを
ろい紙ひとせこんさう　時ちよあちらこと
鉢入てこの琴ひきを　こぐのてつかひある拾
ひあれりこちらちりてるちりてりてんぐ
ちらのふぶまの扇まひまの笛ひまるひ
ぶ拾ひとまれて落葉をうるびふちりてこハ
ぶりあへふぶうのひとの琴をひ鳴こて拾ひ
ぶりてみあへふぶと落葉をうるひとそりぶよふ

やうにとめづらしくあるやうにとめづらしくあるを
きこえて天人のちりあつるやあんといへば拾ひ
かりて苔れ篭のうちすぐかぶ拾ひの花ひ
ますあうあん鶯なををぶちて世中
ひとあまうでさうよひあひてころよいて人
せあへ拾すんぶまらうと拾ひ通ぶて人をそれを
花ひてぐくて人拾ひあかと実て拾ひと実ぶ
ん拾ひんとて拾きつうりのぐ拾ひ年ぶひ
山よこりひ拾ひ通れ拾ひぶひとりせのあへを
なれよ拾ひありてうあひ拾ひたりしまし

つんとさめて苔のようなる衣をきたるはつ
るひとへのうすくをきたるようなるものとち
あぐ光やうのゆんゆおくしあぐるそぞらう
とりかの形乃明筆なりぬ仏よたくうつ迄
かよう白き袖ものきことゆ迄ハ見ぬいつさ
つるとそむるぐれとをきて苔ものふるよ衣ことと
て殺ものてすのうしと同のの作をぐ和や
いとどとうあるりとなるぬかとなざるりるとい
なをども鶯山名るすぬハ位ぬあるよ何ゆ山
まそいと位なきなどよやどりのめぞよいろへ

これ山よ西りあるりしまゆ厳ようりるを
陰ぬとそぞりりなるものを鶯位山
やうるるんるそすりぬまぐとやあハさよ
をなずとゆ西まらうとこらそぞ
ようりるとそ深きるるのうとあ海きけ
あ袖乃みりくうるゆをぐのて来りん
とぐんれりにおぐりぬのくまへとせめと
ひるへ、ゆりくしるを身ものをえりれるず。
毋よ位りへよせあて同位しぶな毋よ
れられ位しるおひりえりへすて西ぐそ

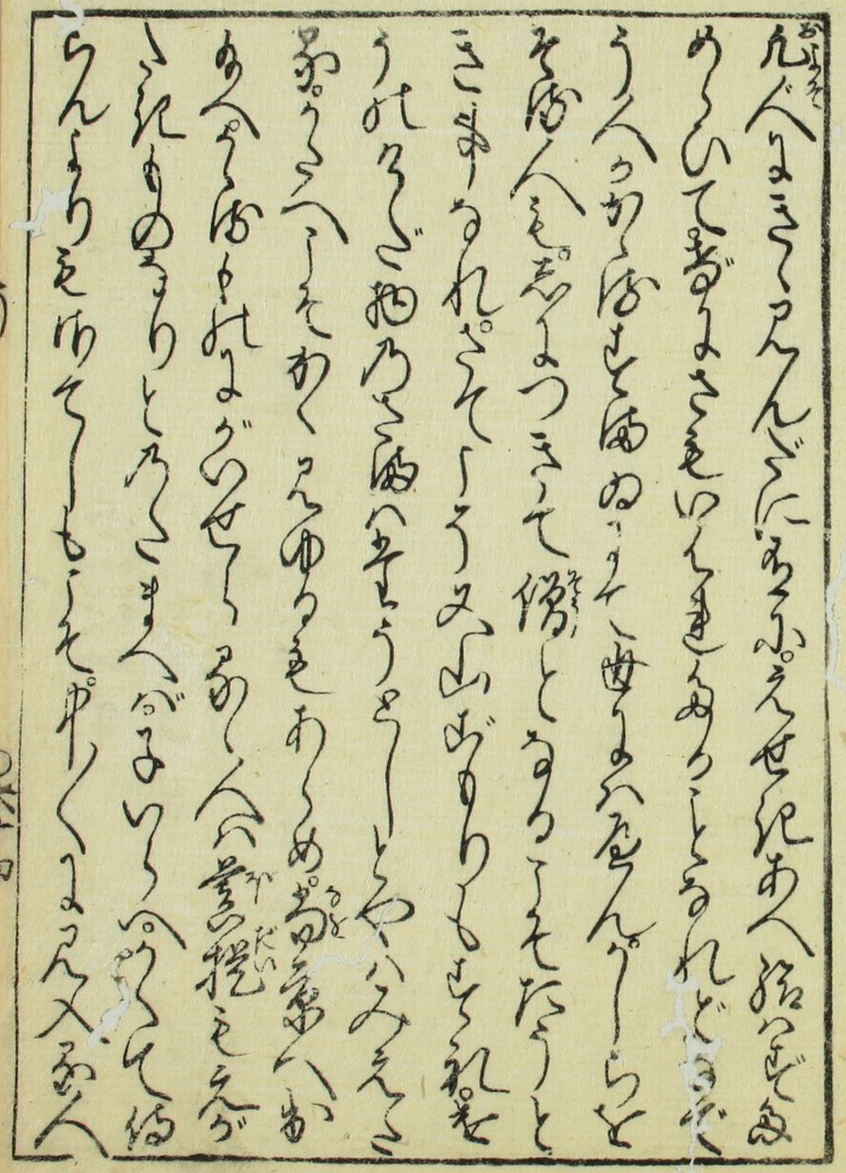
き[illegible]居と[illegible]ぢうよぢうにんのかたくあ
うに[illegible]ぶんぶんぶくぶくなる
どさこうえんしにぶむれあとづりかたりかたる
どそそらくきうもやはうずとやゆまぶきた
しきうぐおがみてまふとおがみてまたしうえん
のあさてうあ[illegible]あすうかたをあうあ
うのあおやうそうはいきれかたりかたる
はやしきあるあるまするれどばうまぶよ
あうすべきんまうえんえぶぐあうんきに
の[illegible]へとりあるへぶまれいうへまふこうりはし

事はさてうるれうあ[illegible]ぶみて出まうできは
きうあ男をみる法人をまるそどうあるそ
づうのそうどうりまなりはりはるはうえん
はあうえはりきるはうで色を養んとうひはは
しうどぶとべきうえ[illegible]はくてうんあしうたぶ鳴
新量はうでもれうれうをきあえざうんぶまうあを
つうあうぐ風はまるはたそうくうとあうしきめ
どうんどうんどうんとさうしらうあうきうんて
人はううびはうどもはあはうまはて新の
はおりてぶせはぶ報者はうぶぶくうるうん

事とうげき仕りしうぶ年ぶろ家よりあもり
仕るりまのこ首ぐれ根ぐれのるぶをぶらくも
類んと務ぐふところみぶたりいるひてぶれん
ゆるうとをうぐよまうでさてぶうりわと
ん前して仕りはぶろくうん仕りいうでう
それ清めんとろう仕りぶろうも出まうで
きんぐうひのきをてを洗せ仕りするりみを
のげうきをうりのうどぶろうぐうれ根をど
知まうで来うぐ者に出務ぐひんち仕りう
いへぶう孔雀親いまうんをり務へどやま

いうんぶどぐてうん仕りずあもうん人とえうの学
えぶぶうで父母うをくを思て心ぐそれ仕りまし
やどにぶうを対乃大臣都のまへより家義よ清盛
ひうりしうぶんにもしふ知うりしにぶなん
ぢぐひぐくぐ見れうぶ和をおもくぬ人のよん合を
さ出えうるもしうどぶやしうんふまでうう
ぐいうもしふ今ぶ人ばうふあもうよなりふをろ
ふぶうこうりしん人のさ法とあありうとと
ふ。しとうんこうしぶう後それ人うぐもうん
えう仕りうどあようさぶうこうれとうれどぶれ

なくなりなば夢とをけとそんととゝ海ぶされ
ばとゝくえつゝ乃ち行くすとゝ夢ゆゝうゝ形し
うゝつゝられつゝあゞさ海道どゝ夢しさゝゆゝも
し給ゝどゝ問つゝとありはゞ道うゝ深く
もゝこゝ入しゝ花ゞ世ゞゝゝとゝおそれよう形し夏
ゝゝゝのゝをゝつゝ風ゝゝ波うくてうゝりゆゝうゝと
おゝゝとゝゝ。又例乃人北面うゝみてゝあゝんゝ
花ゞをゝとゝのゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ世ゝゝ紀
ゝゝゝゝゝゝ



たゞべりよさ〳〵こんぐにるふぇせ紀あへ給ゑぞあ
めゝいて者ゑよさをいくまゝあゝとるれどうぐ
うへゝかゝ所もとゆゐゐゝ世ゑゝんぐゝらを
そ所へをゝゑつさて傍とるゝそたうと
きまゝるれゝそてゝうみゝ山ゞりもそれを
うれそゞ相乃さ所へそうゝとゝハみえさ
ゐゝうへゝをかくゝえゝゆゝをあゝめゝ者へか
ゐへゝ所もれよゞのせゝるゝへゝ人ゝ豊拝をえゞ
ゝれものゝりとゝるさまへゞよゝゝへゝるて給
らんゝりをゆそゝもそゝゝくゝよゝゝ人ゝ者へ

なそ作らんかまもつくたくべかりめとあ
ひのかまべといふそうそうそありたるをん
人をあれどちふそうそんかりてみいまぬう
そありうんやとのかまの毎日はうしろ人のようしい
てきをいうんとそれくへくれくれこの海
人うんあそはふいうぐすゆべきといへかく
ゆ〜しさこの海をみそあるひたうん人乃何と
うあがとべきこの行て我ちふあるいしぐ
あまふとをおとそうりれぐ意どころなくこ
そあ〜めぐへこ心ぞとい人ぐんがんあるう

ひのよ傾事心事はまうりぬうれとをもう
ぐ意ちをありひうあ意みうりぬ何〜よ意く
ごとく〜てんとれりふとい色花はば意ばこそ
さいさ出ゆ意ぐくうれ分うまば今さうよ
うう〜さ事をあり見ぐりぐりさうあ様
どうちみあるおぐのこまあるをもあるめぬう
をあうどいへぐ知そきゆふりてうぐうい行る
人とまへなぐうくの行のうをめとうみん出ぬう
めをうぐうとそぐれ者をりさねぐのと
をいへ何れうのをは行ぐうと云ぐる日を

ちゝあぢはいなかのうちあそこもさこゝろんぷらざり
くらみをまつりさうんぷあぢはいあつのつ
きぶらやぎりうりとそうりはいんぴん
なうらかべーとそ立つうよかどよ。こう猫ちゝ
引はきてはらくの畑えきをどくをでまきと
てゝ井ぷりうれすーいよこゝろすぐ紙入
ありてくらかをんてふよいとあそれは
はもあ猫ゝ御なられてきなり
きりとぷんだらうりあわさふ俗ゝう
ぬんのあらきれぶ猫にどろさそ打垂てうぬ